

磯部鉄工

下関本社の第二工場竣工

長尺産業装置製作を強化

特殊鋳物加工、小倉と連携

川金ホールディングス傘下で特殊鋳物や産業用機械装置の製造を手掛ける磯部鉄工（本社・山口県下関市、社長・荒木逸治氏）が本社工場敷地内に建設を進めていた第二工場が竣工した。30年以上ぶりの大型設備投資（約9億円）で、生産能力を引き上げる。大型産業用機械装置の製造体制を強化するとともに、工場レイアウトを再編して物流動線を改善し、作業効率向上と受注拡大につなげる。

第二工場は鉄骨平屋・延床面積2208平方メートル。天井クレーンは10メートル2基、5メートル3基、2・8メートル1基。第一工場東側の遊休地に建設し、溶接場を第二工場に移設。両工場の間には大ひさしを設け、一体的な運営を可能とした。これまで本社工場ではスペース不足から大型設備を分割して製作し、数キロ離れた港町工場で最終組み立て

を行っていた。このため製品や作業員の移動が頻繁に発生していたが、新工場の完成により横持ち作業を大幅に削減。第一工場内にも十分な組立スペースを確保し、最大70メートル超の大型産業機械装置の一貫製作・組み立てが可能となった。

また、新たに導入した最大積載重量20トンの大型縦型旋盤（芝浦機械製）は、小倉事業所で製造する高クロム鋳鉄「イソクローム」の加工に活用する。小倉との加工最適化を図りながら、こ

新規導入の大型縦型旋盤



大ひさしで第一工場と一体運営



れまで加工能力不足から取り込めなかった受注への対応力を高め、24時間稼働を目指す。本社と小倉事業所で設備共有を進めることで、BCP対応やグループ内連携強化にもつなげていく構え。

建屋はJFEシビルが設計・施工を担当。JFEスチールのグリーン鋼材「JGreenX（ジェイグリークス）」を間柱約40本（11メートル）に採用した。屋根全面には太陽光発電設備を設置し、省エネルギー化や工場内温度の低減を図るなど、カーボンニュートラルへの対応も織り込んだ。

同社はブリヂストンや丸一ステンレス鋼管、丸一鋼管など地場の大型設備投資案件への対応力を一段と高める考え。9日には現地

で竣工式典を開き、荒木社長は「新工場ではお客さまのニーズに合わせた大型設備への対応を軸に競争力強化への意欲を示した。性、安全性、品質の向上を図る。縦型旋盤が小倉事業所で製造する看板商品の加工を担うことで、さらなる販路に努めたい」と新工場